

HONTAN

図書館ボランティア「本探」が 第5号
 司の図書館情報をお知らせします 2010年 1月18号
 747412
 情報がいっぱい



12 PIECES

今回のテーマは、「自分の未熟さを知った。10年後にもう一度読みたい本」です。この奥の深さなテーマに対して HONTAN X-12 はそんな解答をしました。

職員B子 が読みたい
ゲーテ 942.6/G1.2
 『ファウスト』
 あらゆる所で引用、参照されている名作。高校時代には消化できず、再チャレンジしたい!

なのかが が読みたい
米澤穂信 913.6/Y
 『さよなら妹大精』
 「理解」ってなんだ? 思い込みが引き起こした大きな過ち。

卯月 が読みたい
森鷗外 913.6/M
 『舞姫』
 高校生のとき納得がいかなかったので、10年後どう感じるか知りたい。

漁火 が読みたい
大宰治 913.6/D
 『人間失格』
 深く掘り下げられた主人公の内面は、全体的に陰鬱で独特。再読し、読み解いてみたい。

花漣 が読みたい
A.サンテグジュペリ 953/S
 『星の王子さま』
 美しい童話の中にこめられた、人間への深いメッセージ。

N11 が読みたい
宮沢賢治 913.8/M
 『銀河鉄道の夜』
 悲しく「すぎとほる」銀河の光。「ことごと」にしか見えないと思っていた。

舞 が読みたい
津村紀久子 913.6/T
 『ポトスライムの舟』
 世界一周のために誓約を始めるナカセ。学生には理解しがたい虚無感。

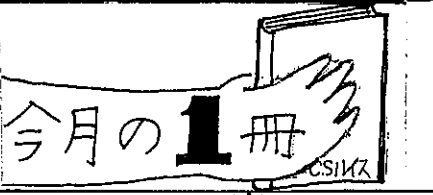
ちゅん が読みたい
フランツカフカ 943.7/K
 『変身』
 ある日自分の体が変わっていた。自分ならどう思い、どう行動するだろう。

きゆう が読みたい
さくらももこ 914.6/S
 『ひとりずもう』
 夢が叶う前と、叶った後の自分はどれだけ違うのかな—

とわか が読みたい
辻村深月 913.6/T
 『ゼロ、ハチゼロ、ナナ』
 10年後、この本の登場人物たちと同じ年齢になった時、私が感じるのは夫感か、反感か。

Anne が読みたい
シエロット・ゾロウ 文
アニタ・ローバール 絵
 『おかあさん』 7266/2
 いつか近づきたい理想の母親像。

ななちゃん が読みたい
丸山健二 913.6/M
 『月は静かに』
 美しい日本語と硬い文体。ひきこまれるストーリー。初めて読んだときの感動。

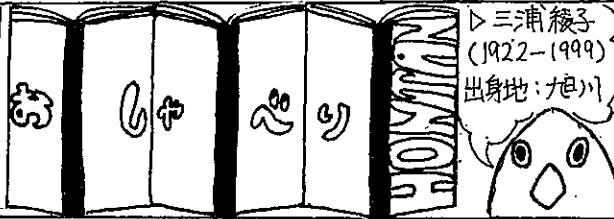


C.SILAS 著
 『魔術師のおい』
 933.71
 L-6

Report ★

にあたるのがこの『魔術師のおい』。ライオン王のアスランがカルニア国をつくらせたの出来事が描かれているのがこの第六巻。
 主役はそこに住む少女ポリーと、両親の仕事の都合で叔父の家に預けられた少年ディゴリー。ディゴリーの叔父家にある屋根裏の書斎にはなにやら秘密があるらしい... という疑問を晴らすべく、二人は書斎へ出向き、そこで二種類の指輪を見つけたが、触ったとたん別世界へ引き込まれてしまい...
 第一巻では衣装屋司が別世界への入口でしたが、今度は指輪。寒い冬の日々に、あなたもカルニア国へ冒険に行きませんか。 <ちゅん>

学外広報誌『HOKUSEI COM』Vol.9(1月号)に HONTAN とくすみ書房(キャポ大谷地内)社長 久住さんとの対談が掲載されています。
 新聞折込で近隣の方に配布されるほか、大学ホームページからも見ることができます。
 ぜひご覧ください。



▷三浦綾子
(1922-1999)
出身地：大川

HONTAN創刊号のおしゃべりHONTANを受けて坂内館長が「桜庭一樹」の本を読んでくれました！

『少女七竈と土人のかわいそうな大人』 913.6/5
感想 インタビュー
正直話の展開に意外性はなく、結末が予想できてしまう。それにも関わらず最後まで読ませる力がこの作家にはある。あの人がこう言ったら相手はその言葉をこう捉え、こう影響を受ける、といったやり取りに真実味を感じた。若い人の感性が描かれている。また自分の出身地である大川が舞台であることに親近感を感じた。大川のひろりと引き締まった空気が描かれていた。

今回は、坂内館長のオススメの三浦綾子の作品についておしゃべりしました。

(卯月) ... <塩狩峠>
もっと読みづらいのかな？って思っていたので、以外に読みやすかった。ただ、話の後半主人公の性格が変わったのはついていけないけれど...。たぶん宗教色が強いのは駄目なのかなって思います。でも全体的に面白い作品でしたよ。

(職員B子)
宗教色だね？私は学問や文学としての宗教って大好きです。私は信仰心はないけど、神を信じてやまない人間の強さや弱さを愛しく感じます。人間の心の神秘を感じる！

(花蓮) ... <雨はあした晴れるだろう>
初期の作品とこのことで、思ったより読みやすく西洋の名著の印象的な引用は洗練ぶが、思春期の少年少女たちの姿を描いていて当時の学生はこんなにしっかりしていたのかと感心しました。

(舞) ... <道ありき>
三浦さんの他の作品を読んでいないので、わかりませんけど...でも別に存教のために本を書いている訳じゃないよね。ひとつひとつのことを、これほどまでに突き詰めて論理的に考えていく力は、今の時代に足りないものかなって思いました。それから登場する人たちの誠実さには、心打られました。自分の利益を求めず自分を取り囲む人たちに真摯に応える姿勢には完敗です。

(ちゃん) ... <命ある限り>
私が抱いていたベストセラー作家のイメージとは裏腹に、質素な生活を送りあつることに感謝の気持ちを持って生きる三浦さんの人生観や純粋な信仰心が彼女の作品に大きい影響を与えているんだなあ

と感じました。
(なのか) ... <病めるときも>
北海道が舞台だからなんなのかわかりませんが...。どれも後味の悪いお話しでした。なんだか正直者は馬鹿を見るのよねニヤスを私は感じました。

(ななちゃん) ... <4割休と私の妻たち上>
物語に入りやすく、また読んでいて茶の湯を魅力的に感じるし、当時の茶の持ち手の大きさを感じます。みんなの書き込みを見ていて、三浦さんは明ない作品が少ないのかな、と勝手に思っていたのですが、特に暗いということもなく、疲れずにずっと読めました。

休憩室 展示紹介

「よく〇〇賞って聞くけれど、実際のところどんなもの？」「そもそもどんな賞があるの？」そんな担当者の小さな疑問から今回の展示が生まれました。テレビなどにもでる有名な賞から、「なんだこの賞!？」というようなマイナーな賞まで9点をピックアップしました。賞を選出する傾向も載せているので、本を選ぶ基準にもなるのではないのでしょうか？

<なのか・花蓮>



HONTAN 雑誌の書評を 紹介
「世界を変えた100日」を振り返ることになってしまいました。「サライ」2009年1月5日号のブックレビューに掲載されていたこの1冊は、1851年から2005年までの、歴史の変化を捉えた瞬間を、詳しい解説や関連書からの抜粋とともに取り上げた写真集です。歴史は繰り返すのかどうか？

今年の終わりに、ちよと眺めてお持ちせんか。 <舞> 『世界を変えた100日』ニッワ・ヤブ著 209.6/5

サライ 2009年1月5日号(第2巻第1号) 2009年を振り返ろうと思ひ立ち、1年前の記事を読んでいたら、思い

コラム 漁火の本探力 NO.2 小樽

硝子細工等のお土産ほかで有名なこの街。「札幌・小樽散歩24コース」<291.1/5>や「札幌・小樽・富良野」函館：あなただけの旅がここにある」<291.1/5>といった本が、あなたの旅情をかき立ててくれるかも。ほら、遠く... オルゴールの音色が聞こえてきませんか？ <漁火>

今回のコラム第2弾は小樽を特集して参ります。海にほど近く、小樽運河等の観光名所、



編集 後記

まだ読んでことのない作家さんの本がいっぱいあります。今回おしゃべりHONTANで取り上げられた三浦さんも今まで読んでことのない作家さんでした。皆さんも長い休みの中で未開拓の作家さんを開拓してみたいかがでしょうか？ <卯月>